

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果分析と考察

兵庫小学校

令和7年度全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証するために国が実施したものです。

本校（兵庫小学校）では、小学6年生を対象に、教科に関する調査（国語・算数・理科）を令和7年4月17日に実施しました。この結果に基づき、本校の教育指導の成果と課題を検証し、今後の指導の充実や学習状況の改善に役立てていきます。

I 調査の概要

1 調査の対象

小学6年生

2 調査の内容

①教科に関する調査（国語・算数・理科）

- ・ 調査する学年の前学年までに含まれる指導内容が原則。
- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識、技能等。
- ・ 知識、技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価、改善する力。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

3 調査実施日

令和7年4月17日（水）

II 調査結果

1 国語

①平均正答率について

本校の平均正答率は14問中10.2問（73%）であり、全国（9.4問/66.8%）及び福井県（9.6問/69%）の平均正答率を上回りました。

②正答率の分布からみる傾向

全国及び福井県と比較し、正答数が多い児童（全国の層分布でA層とされる12問～14問正答した児童）の割合が高い傾向が見られました。特に、12問を正答した児童の割合は36.4%と、福井県（13.6%）や全国（12.4%）と比べて高くなっています。中央値も本校は11.0問であり、福井県・全国の10.0問を上回りました。

2 算数

①平均正答率について

本校の平均正答率は16問中9.1問（57%）であり、全国平均（9.3問/58.0%）をわずかに下回り、福井県平均（9.6問/60%）を下回りました。全国平均とはほぼ同水準と言えます。

②正答率の分布からみる傾向

正答数が多い児童（全国の層分布でA層とされる13問～16問正答した児童）の割合は27.3%であり、福井県（26.6%）や全国（26.9%）とおおむね同程度でした。一方で、正答数が少ない児童（全国の層分布でD層とされる0問～5問正答した児童）の割合は27.3%であり、福井県（16.2%）や全国（16.5%）と比較して高くなっており、学力の定着に二極化の傾向が見られます。中央値は9.0問であり、福井県・全国の10.0問を下回りました。

3 理科

① 平均正答率について

本校の平均正答率は17問中10.5問（62%）であり、全国（9.7問/57.1%）及び福井県（10.4問/61%）の平均正答率を上回りました。

② 正答率の分布からみる傾向

正答数が多い児童（全国の層分布でA層とされる13問～17問正答した児童）の割合は27.3%であり、全国平均（26.9%）と同程度でした。一方で、正答数が少ない児童（D層とされる0問～6問正答した児童）の割合は18.2%となっており、算数（27.3%）ほどではありませんが、一定数の支援が必要な層が存在します。中央値は11.0問であり、全国の10.0問を上回りました。

Ⅲ 分析と考察

1 結果概況

国語は全国及び福井県の平均正答率を上回る良好な結果となりました。算数は全国平均とほぼ同水準でしたが、下位層の割合が高い傾向が見られました。設問によっては全国及び福井県の平均正答率を下回る項目もありますが、本校の児童は無回答率が非常に低く、粘り強く取り組む姿勢が見られました。

2 教科別考察

① 国語

「良好」であること
<p>○ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる（本校 100.0% 全国 81.8%）</p> <p>○ 目的や意図に応じて、文章や図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけ、まとめること（記述式）（本校 63.6% 全国 56.3%）</p> <p>○ 目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる（記述式）（本校 63.6% 全国 61.3%）</p> <p>知識・技能に関する問題（全4問）の平均正答率は90.9%と、福井県（80.8%）、全国（76.9%）を大きく上回っており、基礎的な知識・技能の定着は優れています。</p>
「課題」であること
<p>△ 事実と感想、意見などとの関係について叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること（本校 27.3% 全国 51.3%）</p> <p>△ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけること（本校 27.3% 全国 40.8%）</p> <p><原因></p> <ul style="list-style-type: none">・ 文章の各部分だけでなく、全体を通してどのように構成されているかを正確に捉える活動が十分に行われていないと考えられます。・ 書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているかを書き出し、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめるなどして、内容の中心を捉える活動が不十分であると考えられます。・ 複数の資料や情報源を結び付け、要点を把握する力が不足している可能性があります。 <p><課題解決のために></p> <ul style="list-style-type: none">・ 文章を学ぶ際には、段落相互の関係に注意し、文章全体の構成を捉えて要旨をつかむ活動を意識して取り入れます。・ 内容の中心となる事柄を捉えることができるように、事実、意見、感想などを区別しながら読む指導を徹底します。・ 複数の情報源（文章と図表など）から必要な情報を比較・検討し、目的に応じて整理してまとめる活動を充実させます。

② 算数

「良好」であること

○ 示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができる（短答式）

（本校 81.8% 全国 71.6%）

○ 分数の加法について、共通する単位分数を見いだすこと（短答式）（本校 81.8% 全国 74.1%）

算数では、特に資料から必要な情報を抽出し、式に表して計算する能力については全国平均を上回りました。

「課題」であること

△ 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すこと

（本校 18.2% 全国 40.9%）

△ 数直線上で、1 の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えること

（本校 45.5% 全国 35.0%）

<原因>

- ・ 「10%増量」の問題では、示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることができていないと考えられます。
- ・ 分数の問題では、0 から 1 までが何等分されているのかに着目して単位分数を捉えたり、他の目盛りが表す分数を単位分数の幾つ分として考えたりする活動が不十分であると考えられます。

<課題解決のために>

- ・ 割合の問題を扱う際には、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにする学習を意識して取り入れます。
- ・ 分数の学習において、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、0 から 1 までが何等分されているのかに着目して単位分数を捉えることができるよう、繰り返し指導を行います。
- ・ 算数全体の結果として下位層の割合が高いことから、立体の性質や体積の求め方など、つまずきやすい内容については、授業で繰り返し確認するようにしていきます。問題を解く際に、工夫して簡単に解ける方法はないかを考える機会を増やし、思考力を高めます。

③ 理科

「良好」であること

○ 電磁石の性質や回路に関する知識の定着。

- ・「電流がつくる磁力」において、ベルを鳴らすための回路を正しく選ぶ問題（本校 72.7% 全国 42.9%）
- ・「直列つなぎ」による電磁石の強化に関する知識（本校 72.7% 全国 55.1%）

○ 植物のつくりや土の性質に関する基礎的理解。

- ・ヘチマの花のつくりや受粉に関する問題（本校 81.8% 全国 70.7%）
- ・土の粒の大きさと水のしみ込み方の関係を理解する問題（本校 90.9% 全国 79.5%）

○ 理科に対する非常に高い興味・関心と学習意欲。

- ・「理科の勉強が好き」と回答した児童は 72.7%（全国 51.7%）、「理科の勉強が得意」と回答した児童も 72.7%（全国 40.9%）に達しており、全国平均を超えています。
- ・記述式問題についても、90.9%の児童が「最後まで解答を書こうと努力した」と回答しています。

「課題」であること

△ 観察器具（顕微鏡）の具体的な操作技能の定着。

- ・顕微鏡で花粉を観察する際の適切な操作を選ぶ問題（本校 9.1% 全国 45.6%）

△ 実験結果を基に結論を導き出した「理由」を説明する力。

- ・赤玉土の実験において、結果を基に結論の理由を記述する問題（本校 9.1% 全国 10.6%）
- ・（その他）水の温まり方や蒸発など、目に見えない現象を既習事項と関連付けて予想・説明する力

<原因>

- ・観察や実験の回数は確保されているものの、器具を正しく扱うための個別の技能指導や確認が不十分であった可能性があります。
- ・実験の結果（事実）を述べることはできても、なぜそのような結果になるのかを科学的な言葉で論理的に説明する活動が不足していると考えられます。

<課題解決のために>

- ・顕微鏡などの観察器具を使用する際は、手順書（チェックリスト）を活用し、一人一人が正しく操作できているか机間指導で確実に確認します。

- ・「結果」から「考察」を導き出す場面で、「～という結果になったので、…といえる」といった型を示し、根拠を明確にして書く・話す活動を日常的に取り入れます。
- ・児童の「理科が好き」という高い意欲を活かし、日常生活の中にある不思議（結露や沸騰など）と理科の学習をより積極的に結びつける課題設定を行います。

3 まとめと今後の指導への活用

今回の調査結果から、本校の児童は国語・算数ともに基礎的な知識・技能の定着は概ね良好ですが、特に算数における学力層の二極化と、国語・算数・理科に共通して見られる「理由や過程を論理的に説明する力」が課題として浮かび上がっています。

今後は、国語では「文章全体の構成を捉えて要旨を把握する力」の育成、算数では「割合の概念を正確に理解し応用する力」や「分数の基本的な概念を数直線と関連付けて捉える力」の強化、理科では、実験の「楽しさ」で終わらせず、「観察器具を正しく使いこなす技能」と「根拠に基づき科学的に思考・表現する力」を両立させる指導に重点を置きます。

これらの課題を解決するためには、授業で単に答えを求めるだけでなく、考えの過程を言葉や図、式を関連付けながら説明する活動を重視し、児童一人ひとりが自己の学習状況を振り返り、学習方法を調整する力を育成することが不可欠です。この調査結果を基に、より効果的な授業改善と、児童の主体的な学習を支援する指導の充実に努めてまいります。